



Newsletter

Vol.26 No.1 Sept.2015

Council No.8 Japan Region

みんなの笑顔

カウンスルNo.8 第26期会長

山口久美子

皆様は、ITCに入会した時の希望溢れる想いを今も覚えていますか。その時に夢見たことは実現していますか。私の夢は、カウンスルNo.8のみならず、全国の会員のお顔とお名前を覚えて、お友だちになりたいと思いました。

今から25年前の1990年8月1日に、カウンスルNo.8は、カウンスルNo.1から分割しました。当初から比べるとクラブ数は7から11と増えましたが、15年前の第10期の会員数245名に比べると今では半分以下の121名となってしまいました。また、会合も年4回から2回となりました。お役がない限り他クラブの会員と交流をする場が少なくなってきて、その上少人数クラブでは、一人でいくつものお役を担当していて、クラブ運営を行っていただくだけでも精一杯で余裕がないというのが現実ではないでしょうか。

ITCは、教育訓練機関です。「行うことで学ぶ」のです。クラブの学びを伸ばして元気にするには、チームNo.8として、クラブとクラブを越えた会員同士の交流を図ることが大切だと思います。直接、顔を合わせて話をすれば、心を通わせることができます。それが、仲間となって力を合わせることになって、やがて、活動の活性化へと繋がっていくのです。皆様が笑顔で楽しみながら学べるようにと願って、26期のテーマを「みんなの笑顔」としました。クラブの学びの一助を担うために、私は会合プログラムの充実と今期中の全クラブ訪問を計画しています。

また、クラブとカウンスルを繋ぐのは、ホームページです。カウンスルの最新情報をお届けするとともに、No.8の歴史と変遷を辿るために以前のホームページの形に戻したことをご理解いただき、皆様のご協力の下、更なる充実をと願っています。

では、10月26日に皆様の笑顔にお目にかかることを楽しみにしております。



今期テーマ

リージョン : 行動して解決を Action & Solution

国際 : Leading the Way 先頭を切って ...

新役員はこんな人

山口久美子会長

- 1) 会員一人ひとりに居場所と出番があること。
- 2) 朝起きて、おはよう！といえる時。なんでもない日常生活が過ごせること。
- 3) 怒っているというより情けないと思うのは、今の政治に無関心でいる人たち。
- 4) 根気がなくなったこと。「まあーいいか！」と簡単に妥協してしまいます。
- 5) 「山桜」藤沢周平著 朗読会で披露しようと思って、練習しています。

井田育代第二副会長

- 1) 国際的とは？を訓練の中に求めたいと思います。
- 2) 日々是好日。
- 3) 人身事故等で電車がよく止まり大迷惑。残忍で許しがたい人災。
- 4) 3S（シミ、シワ、シラガ）が増えていること。加齢現象による物忘れ、記憶力の低下。
- 5) 昭和史 上下 半藤一利著。
(東京クラブ夏休み課題図書)

伊藤記美子会計

- 1) 学ぶチャンス。キャリアとスキルを持った諸先輩から多くを学びたい。
- 2) ボランティアをしている青少年海外交換派遣プログラムで子供たちの笑顔を見た時。
- 3) 子供にかかわる凶悪犯罪。子供が夜遅く外出しても不思議でない風潮。
- 4) 時間が足りない。泉のように次々起こることを滞らないように流す能力がほしい。
- 5) 「武士の娘」杉本鉞子著。クラブの先輩から紹介されたもので、いつか原書で読んでみたい。

新役員にお聞きしました。

- 1) ITCに求めているものは？
- 2) 幸せを感じるのはどんな時？
- 3) 現在、怒っていることがありますか？それは何？
- 4) 目下、悩んでいることは？
- 5) 最近、読んだ本は？

前川晃子第一副会長

- 1) ITCは、私にとっての“学校”。学びと友情を期待します。
- 2) エネルギーッシュな孫たちが帰り、ほっとして我に還れる時。
- 3) たくさんあり過ぎて。怒りの表現方法がたまさかの、たった“一票”というも更なる怒りのタネです。
- 4) ITCにおける事務的处理が苦手。克服しようという意欲が湧かないのは、年のせい？
- 5) 「ハリーズ・バー」。ヴェネチアの伝説的なレストランの話で、創業者の息子が書いています。ヘミングウェイも愛したというレストランの回想記。

霜崎洋子書記

- 1) コミュニケーション能力の向上、より豊かな人間関係。
- 2) 前の年のシクラメンが無事に夏を越して、翌年もきれいに咲いてくれた時。
- 3) 強引な解釈で、安全保障関連法案を通そうとしている政府の態度。
- 4) 視力が衰えて、小さな文字を読む根気がなくなってきたこと。
- 5) 「患者さんに伝えたい医師の本心」
高本眞一著 新潮新書。

山内昌子議会法規

- 1) 学びと交流。
- 2) 平穏無事な一日の終わり又は始まりの時。
- 3) 特になし。
- 4) 特になし。
- 5) 「火花」又吉直樹著、「昭和史」半藤一利著。

カウンスルNo.8 第26期 クラブ運営研修会

8月4日 12:45～14:45

於 東京ウィメンズプラザ 視聴覚室



今期クラブ運営研修会は、連日猛暑日を更新する中、ベテランから新人まで8部門48名の参加があった。兼務の多いカウンスルへの派遣員と議会法規役員席は寂しいのが残念だった。

前川晃子第一副会長の司会の下、山口久美子会長が参加者を労い、このCMTが単に資料の確認ではなく、良い討論の場であり、交流を通じて仲間づくりの場になることを願うと挨拶し、部門別研修に入った。リーダーを中心に、「任務と役割」の確認や質疑応答、また意見交換が活発に行われ、いつもながら、「時間が足りない」との悲鳴が上がる白熱振りであった。続く全体会では、リーダーから、クラブ間・異レベル間の交流の活発化、プログラムの充実、会員の動向の正確な管理、正確な事務処理等の必要性が確認されたとの報告があった。中でも、今まで触れられたことが無かったと思われる、耳新しい論点を紹介する。

会長部門：上部レベルの会則修正案に対する
クラブの採決は過半数で良い。

議会法規役員部門：相対多数で表決される指名
委員選挙は、(例えば上位3名当選の
場合でも0票まで)名前と得票数を
全て発表する。

スピーチコンテスト委員会部門：
ライティングコンテスト、
コスモポリタンコンテスト、
非従来型コンテストの明文化が必要である。

以上

“準備のいらぬワークショップ”

研修会後に行われた上記ワークショップは、6月のリージョン大会での教育ミニ講座の内容を、No.8の会員のためにリメイクしたもので、リーダーは山口久美子・斉木ゆかり両トレーナー。「回転寿司」は諸事情から「チラシ寿司」での実施となりました。まず参加者はペアになり、「リージョン3分割のメリット」について、2分間話し合いました。本来はA(話し手)とB(聞き手)に分かれ、3分、2分、1分と時間を縮め、この時間制限で何を残し、何を捨てるか、話の骨子を捉えるトレーニングです。次にAが移動し相手を変えて「リージョン3分割のデメリット」について2分話し合いました。皆が関心を持っているタイムリーなテーマで、聞き手、話し手ともに話に熱が入り盛り上がりました。

次は「インプロ」すなわちインプロバイゼーション=即興劇です。3~4人でグループを作り、「勘違い」をテーマに脚本作りと発表の準備をしました。先着3グループによる劇の発表は、まずは無言劇。演者は何とか分かって貰おうと必死に演じ、聴衆は想像力を働かせて理解しようと真剣でした。続いて、種明かしの有言劇が披露され、そういうことだったのかと納得するとともに言葉で伝えることの大事さを実感しました。因みに演じられた勘違いは「男湯と女湯」「歯磨きチューブとヘアクリーム」「外回りの金融マンの年齢」でした。演劇という非日常体験を通していつもと違う自分を表現、表出する機会を得られたワークショップでした。



*詳しい資料はリージョンホームページに掲載されています。(両稿共、文責:ウェブ・会報委員会)

小菅あけみディヴィジョンIV副会長を囲んで

リージョン大会で耳にした「日本リージョン分割」のニュースに、会場は一時騒然となりました。その後、中島会長から「73 クラブが分割に反対」というメールが入り、期を挟んで高木新会長から「分割はこれからの2年間はないことになった」とのメールが届きましたが、多くの会員は、一体何が起こったのか、何でそうなるのか、分かりませんでした。そこで、当委員会は、国際役員会のメンバーで、この件に関わっていらしてNo.8のお仲間でもある小菅あけみさんに、お話を伺うことにしました。



司会： 今回の事態（混乱振り）を事前に予測していましたか。

小菅： はい。でも一番残念だったのは、バル会長が先ず中島会長と話したいと1ヶ月前から再三申し入れ、その為、大会の3日前から来日し、中島会長、高木次期会長、私の4人で話し合いを持とうとしているのに、大会準備で忙しいからと中島会長が全く応じなかったことです。

司会： それで、仕方なくリージョン大会の会場での発表ということに？

それはともかく、日本リージョン分割のニュースは会長も会員にとってもまさに青天の霹靂だった。大会前にバル会長が中島会長とお話をしたかった中身は、事前の相談では無く、国際役員会で採択されたあの勧告を告げるということですよ。リージョン分割を前提に、準備を進めて1年後に実行するという強制力のあるあの勧告をですよ。

小菅： 実は「ITC会則」に対する英語と日本語の解釈の違いがあったのです。16.8.2.b.日本語版には「リージョン役員会はその通知を取り消すことができる」と書いてあります。私は、勧告は

されても、そこで皆の意見を聞いて断れる、それならいいのではないかと思っていた。

B： でも、それは意識、あくまで日本語の解釈での話ということですね。

小菅： 今まで、ずっとこのITC会則でやってきて、日英で解釈に齟齬があるなんて思いも寄らなかった。英語では「取り消すことができる」とはなっていないことを、今回初めて知った。日本リージョン分割の話は20年前から出ていたから、時代が変わり状況変化に伴い、ここでもう一度考えてみても良いのではないか、一つのリージョンが全会員の半分以上を占めているこのアンバランスをと思った。

C： 分割の提案をするのは良いけれど、今回、決定事項として、命令みたいに来たので、大騒ぎになった。

小菅： そうとらえられて困っている。もっと客観的に見てほしい。

これは、経験からですが、事態によっては、国際役員会は再度検討した結果、勧告を変更したり、会則を一時停止する権利を持っていて、現に、ジーニスクラブやギリシャの件で配慮した

経緯がある。だから、日本リージョンが検討した結果、やっぱり分割は無理ですと言うことになれば、役員会は考えてくれると思う。

C : でもそれは単なる希望的観測に過ぎないのでは？ 日本側がいくら NO と言っても、バランスの観点から、分割は必要ですと言われたら？

小菅 : 今の役員会は、極めて常識のある人達の集まりなので、現場の声を尊重してくれると信じています。

司会 : ITC 会則 16.8.2.b.の英語と日本語間の解釈違いということだけど、「英語版」で考えても「～事前連絡があり～反対できる余地がある」と明記されています。だのに事前連絡なしに採決が強行された理由は、何ですか？

C : 意見を聞くためのものが事前連絡ですよ。事前というからには、採決前でなければおかしいし・・・

小菅 : 分割の話し合いは昨秋の役員会で出ました。でも、それは前もって言わないように言われていた。言っても、反対されるのは分かっているし、賛成の見込みのある話なら、とっくに分割している筈だから。

司会 : では、何故そんな結論の分かっていることを取り上げ、強制力のある勧告の形にしたのですか？

小菅 : 上部レベルの任務として、国際役員会には組織の編成を考える責任と権限があるのです。

B : 国際役員会は、日本リージョンの現状を非常に不自然な状態と見ているわけですね。ですから、それを正そうと・・・

小菅 : 以前も大きくなり過ぎたリージョンがアメリカにあって、当事者は皆分割には反対だった。でも、上から見た時の組織の教育の均等性を考えて通達に踏み切った。いざ、分割してみると、うまくいった。そんな経験から、バル会長は中島会長とじっくり話がしたかった。けれども実現しなかった。

司会 : 反対を押し切ったの結果オーライ、この経験

は参考にしてほしいですね。

国際役員会は年に何回ぐらい？ どんな形で行われているのですか？

小菅 : ハワイとロトルアの世界大会の間（2年間に3回ネバダに出向き、その間も2ヶ月に1回の割合でサイバーミーティングを行っています。長さは2時間位で、画面には6人の顔が出て来て順番に話しますが、資料等前もって回してあっても、討論が通常の役員会より十分にできないのが欠点です。時差があり、私は朝4時起きで、アフリカでは夜、アメリカは昼間。今年度はヨーロッパから役員が出て、私の時間が朝8時に変更になり、ホッとしています。メールは毎日飛び交っていて、メールで採決する問題もあります。



メンバーは、会長、次期会長、ディヴィジョン I～IV副会長4名、書記の7名と議会法規です。ディヴィジョンの副会長と言うのは、出身リージョンだけを背負ってはいません。日本の代議士と違い、地域の利益のみ考えるのではなく、あくまで、立位置も国際的視点から全体のためを考えるように言われています。とは言え、日本リージョンを理解してもらおうパイプ役であることは言うまでもありません。

司会 : 今回、会計処理の不明朗が問題になっていますが、会計役員はいないんですね。議会法規はいるんですか？でも、議会法規に議決権は無いですよ。

小菅 : はい、議会法規の仕事は、会長や役員の疑問に応え、役員会で出てくるモーションを

一手に引き受けます。

D : 小菅さんは、中島会長が事前の話し合いに応じなかったことが原因と仰いましたが、彼女にしてみれば、バル会長が会いたいと言っても、リージョン分割の話とは夢にも思わず、会計処理の回答なら、何も前もって聞かなくても思っただんじゃないですか。

小菅 : でも、大会に参加するために来ている国際会長が、事前打ち合わせで話したいと申し出ているのに、大会準備で忙しいからと言って断るのは、コミュニケーションを勉強しているグループのリーダーとして、良いこととは思いません。

司会 : 日本リージョン分割の話は、国際役員会では以前から出ていたようですが、一向に具体化はされず、いわんや当事者達の耳には全く届いていなかった！それが、今回、突如、強制力のある勧告と言う形で表面化したのには、会計処理問題が関係ありますか？

小菅 : それはありません。偶々時期が重なったので、そう見えてしまいましたが。大会後のバル会長からの手紙に「分割すべきか、すべきでないかについて国際役員会に具体的裏付けを提供する十分な時間が持てるかと確約しました」とあります。これは、大変に好意的で随分譲歩してくれていると思います。

B : 高木会長からも所信表明と言う形で同じ報告がありましたが、これって「ベストの選択」と言えますか。

小菅 : はい、言えると思います。2年の間によく話し合っ、日本リージョンの気持ちを伝えることができるし、必要ならば会則の修正案を提出することもできる。

D : 会則の修正案とは、日英で異なる解釈だったITC会則16.8.2を日本語の「勧告されても断ることができる」にするというものです。ですが、その修正案を出しても、採択される

保障はないわけですね。

小菅 : 賛成してもらうためには、広い視野で各方面に働きかけなければなりません。

C : 我々一人一人に何ができるかと考えても、それって、個人の活動レベルを超えていますよね。

小菅 : 高木会長が「日本リージョン未来構想委員会」を立ち上げましたので、リージョンが中心となって、対応できると思います。また、幅広く理解を深めるためにも、会則修正案は早目に出しておくに越したことはないと思います。

司会 : 会則の修正案はシアトルでの次回世界大会に提出されるのです。だとすると、日本リージョンはクラブ数が多いから、希望が持てますね。

B : でも、投票権があるのは派遣員を出しているクラブに限られますよね。

採択に必要なのは、3分の2以上 or 過半数？

小菅 : ITC全クラブ数は現在209で、日本リージョンのクラブ数は75。会則修正案の採択はクラブ派遣員数の3分の2です。因みに、ロトルアの大会で派遣員を出したクラブは93でした。

D : 日本リージョンからはなるべく多くのクラブが派遣員か派遣員代理を出すことですね。

「皆でシアトルに行こう！」のキャンペーンをしましょうよ。

小菅 : 大変ですが、日本での世界大会を考えると可能性の一つです。そうすれば、国際のことも良くわかるし、会員数が多い分、盛況になると思います。

司会 : 本日は、猛暑でお忙しい中、お時間をいただきありがとうございました。



(文責：ウェブサイト・会報委員会)

職権委員として座談会に参加して・・

今回の「分割騒動」について、だいたいの事情を知ることができましたが、国際役員会が、「組織の編成を考える責任と権限」のもと、「事前通告なしに勧告できる」「強制力のある通達だが、話は聞いてあげる」という考え方には、納得できないものを感じる会員も多いことでしょう。

しかし、今の平行線から抜け出す一つの方法として、今期のリージョン会長から「会則修正案の提出」が提案されたのですから、それは会員として真摯に検討する必要があると思います。また、国際役員会には、全会員の半分以上が、非英語圏の会員であることへの認識をもっと深めていただきたい。と同時に、私たちも国際に対しての接点を広げていくこと。それこそが ITC の理念である世界中の「相互理解の促進」につながるのではないのでしょうか。

(山口久美子 記)

ロトルア大会に参加して

藤原 雅子 (柏・東葛)

ことしの大会は7月17日から22日までニュージーランドのロトルアで行われました。日本からは約30名、ご夫婦で参加なさった方もおいででした。カウンスルNo.8からの参加人数は6名でした。全員すぐに仲良しになったことは言うまでもありません。まずびっくりしたのはJapan Region 会員の活躍ぶりでした。全部で12のワークショップがありましたが、そのうち2つは日本リージョン会員が受け持ちました。一つは「日本の伝統芸能」でした。



会員が狂言、南京玉すだれを披露した後、外国の方も加わって全員で阿波踊りを踊り、大いに楽しみました。もう一つは「汝自身を知れ」と題して自分では気づかない能力を発見するという内容でした。日本リージョン会員たちが通訳や盛り上げ役として大活躍しました。そのほか、他のワークショップのプログラムリーダーやページになったり、役員選挙のお手伝いなどをしたり、結構忙しかったです。ジャパンナイトでは日本舞踊やお習字も披露しました。ワークショップをスキップしてロトルア観光にも行きました。ロトルアは温泉地帯にあります。歩いて10分の、ロトルア湖を眼前に眺めながらの温泉は最高でした。ホテルにある温泉でも、泳いだりのんびり浸かったりしておしゃべりを楽しみました。ビジネスセッションでは活発な意見が飛び交いました。ニュージーランド英語はわかりにくい上に進行がはやいので、日本人はお互いに近くの席に座り、助け合いました。元日本リージョン会員のアン・イソットさんにもずいぶんお世話になりました。選挙の結果、小菅あけみさんが大差でディビジョンIVの副会長に再選されたときは本当に嬉しかったです。次回、2017年はシアトルです。ご一緒できたらいいですね。

編集後記

懸案の日本リージョン分割問題、皆様にお伝えすることがあれば少しでも早く10/1発行予定を1ヶ月近く前倒ししてお届けしています。お忙しい中、ご協力に感謝します。小菅さんがNo.8のお仲間なので、膝を交えてお話しのお話を得、遠い存在だった国際が少しだけ近く感じられるようになりました。(R.M)

お知らせ

- 10/1 第26期ホームページ更新完了
- 10/26 カウンスル第26期 第1回会合
- 12/1 第2回ニュースレター発行
- 4/23 カウンスル第26期 第2回会合